

# みつくら

平成30年10月15日 第276号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 郵便ポスト移転の動き

8月27日に大瀬川歴史探訪講座があった折りに、熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長が主催者挨拶のなかで「地区の方々から要望されていた、小屋場の郵便ポストの移転については、このほど郵便局から了解を頂いた。今年度内には実現出来ればと思っています」話された。

記録に残る小屋場の郵便ポストは明治30年に「床屋学校脇のポスト」とあることから、この時期には現在の板垣弘清さん宅駐車場付近にあったと思われる。大瀬川小学校が大正3年にたばこ屋さんの西側に移転してからもそのままであった。明治20年頃に甘木家が犬飼町家の北側から小屋場に移転したあと、昭和6年に、はたふく商店を開業しているが、昭和9年に簡易郵便取扱所（販売免許の日付）となって切手や葉書、印紙を売ったが、その時にポストも甘木家の十字路口脇に移転している文書が甘木家に残っている。大正7年5月2日に宮澤賢治が小屋場から郵便を投函したのは、床屋学校跡のポストからであった。その後平成6年11月12日にビュアもの木のコンビニ店開店と同時に甘木家からビュアもの木の木にポストと切手類の取扱が替わっている。

## 6年目の石鳥谷小学校で紙芝居の上演

去る8月30日、くずまる民話クラブ（板垣公部長）は石鳥谷小学校で7回目となる大型紙芝居を上演した。当日は語り部の女性3名と会員の男性3名。

最初は、2年生へ菅原千恵子さんが「あぶない殿」と「山の小僧」の2作を語り、1年生も菅原千恵子さんが語った。続いて、4年生には「兄ьяんの修行」を菅原佳子さんが語り、「狐の仕返し」を菅原敬子さんが語った。紙芝居には難しい方言が出るので敬子さんが方言クイズを出したところ、正解が非常に少ないのに驚き普段使っている方言をいかに継承していくかを考えさせられた。最後に、3年生へ語り、感想を聞くと沢山の手が挙がり、大人では思い付かない鋭く突いた感想が出ていた。

## 震災復興みち半ば「トレッキングinやまだ」

生涯スポーツ推進委員会は9月30日に写真クラブと合同で自然体験学習事業地区民トレッキングを実施した。今までは、トレッキングと言えば山を歩いていたが、初の試みとして「まちなかトレッキング」を計画した。当日は台風24号が近づいている小雨のなか、参加者20名はバスで山田町を目指した。釜石市内に入り、車窓から7年たった今でも随所に残る津波被害の爪後を眺めながら山田町に到着。

語り部ガイドの椎屋（しいや）さん(大分県出身)の案内で、津波の襲来直後からの山田町の老舗店舗「びはん」の被災者対応と事業再開までの記録映像が紹介された。その後、近くの御蔵山に登り、津波の時そこには50人ほどが避難していたが、その波は階段の上から一段目で押し寄せたことや、JR山田駅の駅章の時計が津波襲来の時間で止まったままで保管されていると話された。一行は山を下り、防潮堤が整備されて市街地からは海が見えなくなった場所や、嵩上げされた新しい区画に建物が建ち始めた地域の説明を聞きながら散策した。ここは、市街地の6割が津波の火災で焼失した場所で、多くの住民が元の場所に住みたいと嵩上げしていると説明があった。また、来年3月に三陸鉄道に移管され再開する山田駅の工事現場も見えた。特にも、嵩上げた盛り土と旧道路との差に圧倒され、参加者は、津波の高さと復興の凄さで驚嘆し、内陸にいると見えない沿岸部の復興の現実をまざまざと感じ取った。

帰りのバスでは、あいにくの雨模様のため、写真クラブとしての撮影状況は悪かったものの、気軽にできるまちなかトレッキングは好評で今後も企画してほしいと話が出ていた。

## 中央長寿会が「奉仕の日」

大瀬川中央長寿会（菅原靖夫会長）では、毎年敬老祭前に「奉仕の日」を設けて、環境活動を行っている。今回の活動は、9月3日に23名が大瀬川運動公園の植栽の剪定や、公園の草取りをし、綺麗な環境で敬老祭を迎える事ができるようになった。当日の写真は10月1日号に掲載されている。

## 表彰

岩手県芸術祭写真部門入選 板垣弘清

## 巖かに黒森山神社の例大祭

黒森山神社の例大祭は、9月17日に40名が参加して行われた。直町宮司は「今年の稲作はやや良との報道があったが、これも崇敬者に対する御護りがあったからとされます。これからも、お互いが精進して災害の多い今年を乗り越えましょう」と講話があった。

毎年、参拝させて頂いているが、神殿前の石碑に気付かなかった。それには「黒森山神社狛犬一對、寄進、昭和17年3月17日、板垣市郎」。他に「黒森山神社参道杉、昭和37年5月1日、寄進150本、板垣市郎」とあった。先人の奇特が偲ばれる。

## 猪の被害広がる

高井沢（地名）で猪の被害が広がっている。既に稲刈りも終わりを告げるが、盆過ぎから高井沢地区で菅原清昇さんや菅原孝作さんの水田がめちゃくちゃに荒らされた。菅原孝作さんはその対策として所有田周辺約800mに1万ボルト（静電気）の電牧を10万円かけて設置した。「市の補助金制度も有ると言うが、手続きが面倒なので使わなかった」と菅原さんは話している。

## 猪の轢死体増える

高井沢の組堤付近で菅原孝作さんが見た親子ずれの猪軍団は、大きな母猪（山羊位）と7頭の子猪が市道大瀬川線を横切っていた。子猪と言っても、大きさは大きな犬ぐらいだったとの事。それにつれて、車に轢かれる猪も多くなった。5月13日に高井沢の市道で轢かれた猪（体重130kg）、8月12日には振興センター駐車場脇の県道での子猪（体重30kg）、9月17日佐藤忠治さん近くの県道で猪（体重100kg）と、昨年は皆無だったがこれだけ増えていると言う事か。

## 上水道館山配水管布設工事始まる

岩手中部水道企業団発注の館山配水管布設工事は2月28日までの期限で工事が始まった。この配水管布設工事は、新堀にある上水道揚水場（井戸から汲み上げている）の水不足対策で、特に冬期間の渇水で不便をしていた。それを踏まえて企業団では新堀地区への上水道を、私たちと同じ入畑ダムを水源とする方式にするため大瀬川の館山配水池から新堀地区へ上水道を供給するもの。

全面通行止めの区間は二つの工区で、市道大瀬川線と金矢線交差点から金矢を通り、菅原正勝さん北側から東へ、更にふれあい運動公園までである。金矢線にしても、熊谷律夫さん宅北側の道路が全面通行止めと言われても、長作家や与五郎家など生活部分は通れると思うが、しばらく我慢しなければならない。

## ホールインワンを狙ってグランドゴルフ

大瀬川体育協会（熊谷俊哉会長）と生涯スポーツ推進事業との合同で9月23日に軽スポーツ大会が開催された。種目はグランドゴルフで参加者25名を8チームに分け3ラウンド行った。それぞれ、マイ・ステックとボールを持って来た人もおり、カラフルなボールが飛んでいた。前日の雨のためか、グランドが柔らかく、思ったよりボールが飛ばずに良いコースを転がってもゴールには入らず、普段歩かない人には3ラウンドはキツイ運動だったが、普段から競技している人は非常に上手い。その中で、ホールインワンは菅原佳子さん、熊谷レイ子さん、板垣伸吾さんが出した。ソフトバレーも予定していたが参加者が足りず中止となり、次回からは開催時期とPR方法を検討して行ないたいと話していた。

# みつくら

平成30年10月15日 第276号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 公葬地駐車場及び周辺を草刈り

大瀬川公葬地管理運営委員会(板垣弘清委員長)は、8月1日に14名が参加して、清々しい気持ちでお墓参りが出来るよう公葬地の草刈りや清掃を行った。また、駐車場の排水溝が機能しなくなった為の点検も実施した。この排水溝は、10月に修理をする予定になっている。

## 松尾大神に良酒と安全を祈願

去る9月13日に、大瀬川松尾会が今年の酒造りで良酒と、勤務中の安全を祈って「松尾碑建立90周年祈願祭」を行った。この日の祈願祭には助作家に保管している松尾大神(掛け軸)を借りて13年振りに祀り、熊谷和紀別当職の玉串奉奠を最初に助作家の菅原宗一さん、杜氏代表の板垣忠治さんの順で厳かに行われた。この松尾大神の掛け軸は、助作家の家宝にしている酒造りの神様で、藩政時代から助作家に祀られているといわれている。助作家の菅原隆一さんは、かろく商店の板垣和子さんに頼み、昭和40年頃この掛け軸の包み袋を縫って貰い、普段はそれに保管している。

主催した松尾会は、昔は杜氏のみが会員であったが現在は酒屋働きも少なくなって、杜氏以外にも酒造の従業者にも加わって頂いている。祈願祭の直会は紫波グリーンホテルで10名が参加して行われたが、それに先立ち、亡くなられた菅原久雄さんと藤原正昭(大興寺)さんに黙祷を捧げ、辻村勝俊さんの挨拶に続いて菅原敬夫さんの乾杯で始まり盛会であった。

## 板垣 寛さんが稿本を出版

岩手日報によると、板垣さんは9月半ばに自費出版「続・賢治先生と石鳥谷の人々」を発売した。この中には大瀬川に関する事柄も多く書かれていて郷土資料としても活用出来る。本はA5判256ページで、前作から20年を経たの刊行であった。記事によると、12章に分けられ、数多くの賢治にまつわる事柄が詰まっているという。

## 全国高校文化祭で最優秀賞

花巻農業高校鹿踊り部副部長の小森田航(わたる)さんは、8月10日に伊那市(長野県)で行われた第42回全国高校総合文化祭郷土芸能部門に鹿踊り部の一員として一番庭、二番庭、案山子踊り等を組み合わせた演舞で、見事に日本一に輝いた。

小森田さんて、大瀬川の方なの?と思われたでしょう。航さんの父さんは、7区田中家の菅原茂さんの弟で小森田敏(さとし)さん。現在は紫波町彦部にある福島エンヤ(株)岩手工場長の要職を担っている。花農鹿踊り部は今回5年振り8度目の出場で、初の栄冠を勝ち得たものであった。この栄誉で、8月25日と26日には東京千代田区の国立劇場で、多くの観客の前に演舞を披露し、大きな拍手を頂いた。

## 板垣 崇志さんが精神保健講演

花巻あけぼの会と花巻市社会福祉協議会共催の平成30年度精神保健講演会並びに地域生活支援研修会は、9月19日「なはんプラザ」で約300名が出席して行われ、上野々家の板垣崇志さんが当日のシンポジウム「誰にでも生きてきた物語がある。知ることですし少しづつ身近になる ひとりひとりのひと」の中で「当事者との出前授業」を演題に講演した。

板垣さんは、るんびにい美術館にアートディレクターとして勤務していて、その実践活動の中から「知的障がい者の社会への融け込みには、未だに残っている偏見を取り払い『障がい者』の意味を正しく知ってもらうしか無い」との理念から、一般の社会人と共に、子供達が理解する事が、長い目でみると必ず役に立つと考えました」と語り、「そのために、障がい者と共に学校へ出向いて『出前授業』をしています」との事。今までの22回に亘る出前授業の様子を映像で示し、「これらが続けて行くことで、誰にでも、それぞれ立派な個性が有るということを知ってもらえれば、いじめも無くなると思います」と結ばれた。

東京学芸大学を卒業後、更に岩手大学で学んだ板垣さんは、私たちと視点が違うなど改めて感銘を受けた講演であった。

## 人 事

8区山祇神社幟旗設置会 会長 板垣幸寿

## 短 信

○ph0t0im2018写真展は、9月7~9日(日)盛岡の「おでって」で開かれ板垣弘清さんの写真「瀑布、早暁の露、竹の春、静寂」の5点が出展した。また、9月7日に二科展の表彰(作品名いぶりがっこ)を受けた。

○爽やかな秋晴れとなった9月12日山祇神社例大祭は、神輿渡御を行って、午前11時に天満宮例大祭、午後3時から山祇神社例大祭(参列者70名)を行った。また、この日は各区で児童、生徒による御神輿巡行も行い、音頭上げや笛の音が聞こえた。

## 訃 報

久左衛門竈家の菅原久雄さんは、9月7日に79歳で亡くなられました。菅原さんで思い出すのは、17歳の時に川敬酒造店(宮城県)で酒屋働きをされてから63歳まで、実に50年間にわたって酒造に携わった方でした。その間には、29歳の若さで杜氏試験に合格してからは名杜氏として名を馳せ、南部杜氏自醸清酒鑑評会では優等賞通算21回受賞しましたほか、全国清酒鑑評会にも数多く入賞しました。

その出稼ぎでの体験を表したのが趣味の川柳で、平成元年発行の「川柳合同句集いしどりや」に「故郷(ふるさと)へ 想いを馳せる 寝言かな」など20句を投稿しています。自分の寝言は分らないものなので、隣に寝ている人の寝言に自分を重ねたのではなかったでしょうか。菅原さんについては他にも多くの思い出があって、小学校の校庭に初めてスケートリンクを作るため、僅か3人で夜通し水かけしたその内の一人でもありました。

他にも県知事から統計功労で表彰も受けられていますので、それらにも数十年以上尽くされた事でしょう。大瀬川子供会育成会(当時は子供ではなく、子供会の育成であった)副会長や7区公民館副館長など多くの役職で地域に貢献されました菅原さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 事務室 お気軽に入り下さい

大澤竹次郎の生家である大澤家の墓に「道しるべを・・・」と顕彰会の願いが叶い、現在制作中。「大澤竹次郎の生涯」を発売してから3年半。台風の雨の中、その墓前に佇んで手を合わせ、「高橋六郎さんも黄泉の世界へ行きました」と呟いた。この墓には、竹次郎が入っている訳では無いが、何か伝わってくる感じられた。

高橋さんは上野家のお生まれで、高橋さんが居られなかったら家畜解剖学の祖と言われる大澤竹次郎も大瀬川で語られる事は無かった。葬儀には、顕彰会長の熊谷善志さんが弔辞の中で「高橋さんの研究がありましたから、私たちの活動につながりました」と御礼を述べられた。偶然が偶然を呼ぶものだ。その高橋六郎さん研究は個人の研究として誰にも語った事はなかった。その偶然とは、高橋六郎さんを知る前に高橋久雄さんから「大瀬川から偉い学者えだったそう(いた)そう(だ)が、知ってる?」とさりりと流れた言葉であった。聞き流せばそれでお終い。ものは直ぐが良い。直ぐさま、その足で高橋善太郎(上野家)さんを尋ねた。なんと、上野家では昔に東京の大澤家と手紙の交流があったという。

そこで六郎さんを知る事になる。これも偶然。六郎さんは、生年や家族の系図、さらに菩提寺などこつこつと研究していたのであった。

## 声をお聞かせ下さい

感想・意見をお待ちしております。大瀬川振興センターに電話もしくは、ポストへ・・・待ってまーす!!